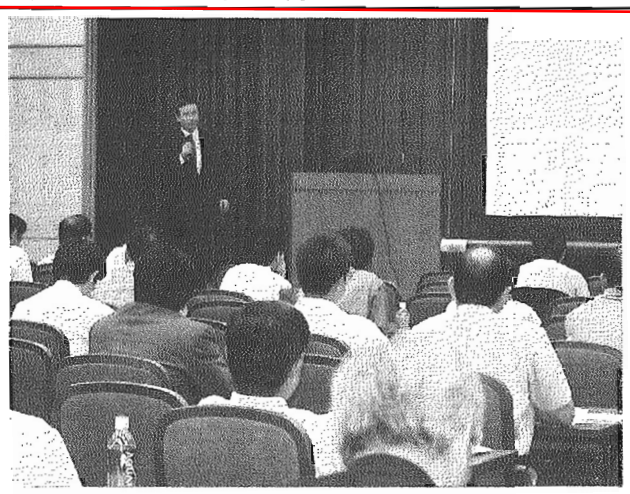
GIS普及セミナーin鹿児島

行政業務の検討等提言

国土地理院等

かごしまGIS・GPS普及推進研究会と国土地理院九州地方測量部、総務省、日本建設情報総合センター共催の「地理情報システム（GIS）普及セミナーin鹿児島」が14日、鹿児島市の県市町村自治会館で開かれ、県内の地方公共団体や各種関連企業などから約140人が出席。自治体業務の効率化と質の高い行政サービスの実現に向けた取り組みを学んだ。



GISに対する理解を深めたセミナー
＝鹿児島市の県市町村自治会館で

セミナーでは、初めに鹿屋体育大学スポーツライフスタイル・マネジメント系助教授の山崎利夫氏が「地方自治体におけるGIS導入のための留意点」の演目で特別講演を行った。その中で、「自治体のGIS導入にあたっては職員の意識改革や組織体制の整備など、今までの行政業務の再検討が必要」とし、さらに「産官学で連携してGIS及びGPSに対する理解を深め、知識・技術の習得と研究など普及推進を図る必要がある」などと提言した。

続いて総務省自治行政局地域情報政策室の原口学課長が「電子自治体の推進と統合型GIS」、国土地理院九州地方測量部国土情報管理官の林孝氏が「GISに関する国土地理院の取り組み」、さらに日本建設情報総合センターGIS研究部の小澤理晴氏が「市町村合併に伴うGISの導入について」と題してそれぞれ講演。最後に鹿屋市の地図情報システム推進係長の梶護氏が「鹿屋市の地図情報システムの現状と課題」と題して事例紹介を行った。

県高齢者雇用支援の集い

美創産業に協会長表彰

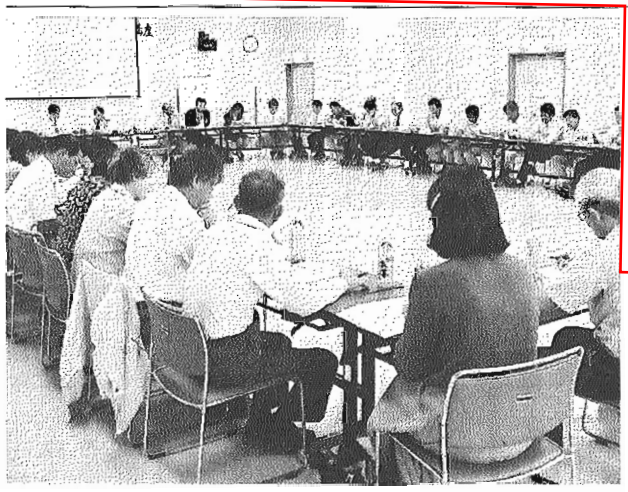
県、県雇用能力開発協会、雇用・能力開発機構鹿児島センターは14日、鹿児島市の城山観光ホテルで「16年度県高齢者雇用支援の集い」を開き、事業主・事業主団体が参加し、高年齢者の雇用・就業などへの理解と協力を求め、意識の高揚を図った。また席上、県知事表彰などが行われ建設関連では、協会長表彰として㈱美創産業（六反田賢藏社長、鹿児島市）が受賞した。

社長代理で表彰状を受ける六反田辰巳㈱美創産業専務＝鹿児島市の城山観光ホテルで

集いでは、主催者側から「本格的な高齢化社会を迎え、高齢者の雇用就業の場の確保は重要な課題の一つである。また、能力や経験を十分に生かせる雇用環境の整備への取り組みを積極的に行い、年齢にかかわりなく働き続ける社会の実現が必要」と挨拶した。

続いて、功績のあった企業に対し県知事表彰、県雇用能力開発協会長表彰が手渡された。協会長表彰に輝いた㈱美創産業は「年齢にかかわらず、健康で意欲と能力を十分発揮できる環境を整備している」などと評価された。

このあと、吉武裕鹿屋体育大学体育学部教授が「高年齢者の体力とプロダクティビティ」と題して講演したほか、特設会場として高年齢者雇用管理、各種助成金、企業・創出支援相談コーナー、能力開発支援コーナーなども設けられ、親身に相談に応じていた。



指宿地区管内の沿線住民ら約60人が参加して開かれた講座＝喜入町の道の駅喜入で

ちゃくプロジェクト等講座

道づくりへ意見交換

鹿児島国道

九州地方整備局鹿児島国道事務所は14日、指宿郡喜入町の道の駅喜入で、九州管内で初めての試みとなる「ちゃくちゃくプロジェクト等よりあい講座」を開き、指宿地区管内の各行政関係者や沿線住民ら約60人が参加、ちゃくちゃくプロジェクト等についての説明や地域にふさわしい道づくりを目指すための今後の道づくりをメーンテーマにした意見交換などを行った。

講座では、初めに赤星文生鹿児島国道事務所技術副所長が、事務所の事業及び講座の目的など紹介し、「限られた時間でありますが、遠慮なく意見を出していただきたい」と挨拶。次いで、同事務所及び指宿維持出張所の各担当者らが、「ちゃくちゃくプロジェクト」の紹介や同プロジェクトを基にして事業を実施した「国道225号川辺町平山中交差点改良工事」の事例報告。また、道守かごしま会議及び国道維持管理コミュニケーション型ワークショップ協議会の活動内容の説明、指宿維持出張所管内における道路維持管理の現状や災害対策車などについての紹介などを行った。

引き続き行われた出席者との意見交換会では、国及び各自治体との連携をしっかり取ってもらいたいことや各種情報窓口の一本化を図ってほしいことなどさまざまな意見が出されていた。

なお、年内をめどに加治木出張所管内で同講座の開催を予定しているほか、17年度には残りの2出張所でも同講座を実施したいとしている。

大崎町でソリューションセミナー

観測機器のプレゼンも

㈱久永（久永修平社長）は14日、曽於郡大崎町のワコーヒルズ本館で、既存のシステムを活用した対策提案をメーンとした電子納品への対応として「ソリューションセミナー2004」を開いた。関連業者ら約50人が参加して電子納品の重要ポイントを実体験し解決方法等を学んだ。また電子納品支援システムや測量から観測データ機器のプレゼンテーションも行われた。

測量機器等に見入る参加者
＝大崎町のワコーヒルズ本館で

午前中のセミナーでは、阿比留英樹㈱建設システム・CALS/ECインストラクターが、電子納品の成功に向けて各プロセスごとの重要ポイントを実体験をもとに講義。

午後からは、上田英二全日本建設産業CALS推進研究員と宮下宗大氏（㈱ビックバン）が電子納品要領（案）やデジタル写真管理情報（案）など電子納品において〝守るべきルール〟についてのポイントなどを分かりやすく紹介した。

参加者は「現在、電子納品に携わっていますがよく理解できたので今後の仕事に役立つと思います」と感想を語った。

中間社長（左から2人目）らによるテープカット
＝鹿児島市の山形屋1号館で

日本ガス第40回ガス展

ガスの魅力を紹介

18日まで

日本ガス㈱（中間兼市社長）は14日、鹿児島市の山形屋1号館6階大催場で「第40回ガス展」を開き、新製品の発表・展示販売をはじめ、多彩なイベント、実演コーナーなどを設置、初日から大勢の来場者が訪れ、終日にぎわった。ガス展は18日まで。

オープニングセレモニーでは、中間社長が「メーカー各社が総力をあげて研究開発した新製品の発表・展示販売をはじめ、各種企画を準備しています。期間中、一人でも多くのお客さまにお越しいただき、地域に根差したイベントとしてぜひとも成功させたい」などと挨拶。中間社長、山崎善郎リンナイ㈱社長、加藤りつ子鹿児島市市民局市民部消費生活センター所長、岩元純吉㈱山形屋社長によるテープカットが行われ、オープンと同時に開場を待ちわびた来場者が次々と押し寄せ、あっという間に会場を埋めつくした。

会場では、4月に販売を開始した家庭用コ・ジェネレーションシステム「エコウィル」の機器提案コーナーや多機能なガス給湯暖房システムやビルトインコンロ、ガステーブルなどの展示・販売のほか、ガスを利用した調理方法や料理の魅力などを実体験を盛り込んで紹介する料理講演会も行われた。来場者は各種新製品など、スタッフの説明を熱心に聞く姿が見られ、会場は終日にぎわっていた。